

開倫塾生は、新聞を毎日読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けよう

開倫塾
塾長 林 明夫



1. 本日、10月15日(水)から新聞週間が始まりました。また、11月1日(土)からNIE(新聞を教育へ)月間が始まります。
2. 開倫塾では、創業した初日から新聞を毎日のように活用した教育を行ってきました。現在、開倫塾の多くの校舎では、新聞を活用した教育が盛んに行われております。
3. 10月13日(月)の朝刊には、ノーベル平和賞を受賞したマララさんのスピーチの全文が日本語訳が掲載されています。史上最年少17歳でノーベル賞を受賞したマララさんの自らの生命をかけての、「子供の教育」、「母国パキスタンと、隣国インドの平和構築」更には、「多様な宗教の共存」にかける思いが、よく伝わってきます。スピーチの原文(英文)は、読売新聞のHPでご覧になれます。
4. 是非、塾生の皆様は、マララさんや、同時にノーベル平和賞を受賞なさったインドのカティラタシュさんの新聞記事をお読みください。また、スピーチの日本語訳とともに原文(英文)をお読みください。
そして、いま世界で起こっていることとは何か、自分たちができることは何かを、自分の力で考えていただきたいと希望します。
5. また、ノーベル物理学賞を受賞した3人の日本人科学者についても注目をお願いします。先週からの新聞や、これからの新聞報道を丹念に読み込み、理解を深めてください。科学への興味・関心。意欲を深めて頂きたいと希望します。
6. 今週は、10月13日(月)から14日(火)にかけて超大型台風が日本列島を横断しました。TV,ラジオ、新聞などの報道を最大活用して、自然災害に備えることが求められます。自分の力で考え、もしかしたらこの場合はこうした方がいいのではないかと批判的思考能力を駆使することも求められます。
7. 「新聞を毎日読む」ことで身に着く力とは何か。第一に「自分で考える力」と、第二に「批判的思考能力」だと考えます。
8. マララさん、カティラタシュさん、お二人のノーベル平和賞受賞と、3人の日本人科学者のノーベル物理学賞受賞の記事をこれから年末まで、丹念にお読みください。大切と思われる記事は、ハサミで切り取り、ノートに貼り付けておくことをお勧めします。
9. このように、5人のノーベル賞受賞者の新聞記事を通して、社会科や理科の素晴らしい勉強ができます。何のために社規や理科を学ばねばならないかよくわかります。英語はどのくらい国際社会で役に立つのかもわかります。全ての教科を学ぶ意味がよくわかります。

10. 小6、中3、高3の受験生、また、来年度j受験生になる小5、中2、高2の塾生もさらには、2年後に受験生になる、小5中1、高1の塾生は、新聞を毎日読むようお願いいたします。
11. 受験生は、新聞を毎日読むことをお勧めします。受験が近くなればなるほど、頭がさえ渡り、知識がどんどん蓄積され、体系的になります。新聞に書いてある内容がよくわかるようになります。新聞を読むスピードもどんどん上がります。
12. 新聞を毎日読むと、各教科の最先端の情報を読み解く読解力が備わります。受験にも役に立ちます。
13. 日本語の新聞で読んだ内容から、順次、英字新聞の記事を読むと、英語の良い勉強になります。慣れてくれば、どんどん英字新聞も読めます。どんどん英字新聞が読めるようになれば、英文の読解スピードが急上昇します。英字新聞を読む力は、大学センター試験の英語に圧倒的に有利です。
14. 大学に入るまでに、英字新聞に親しめば、大学生活が一気に充実します。文字通り、多様な選択肢のある大学生活が送れます。就活にも極めて有利、仕事の上にも役立ちます。
15. 新聞で、受験や、学校の勉強に一番役立つのは、夕刊です。土曜版や、日曜版、NIE コーナーも役立ちます。
16. 小中学生コーナー、中高生コーナーも役立ちます。小学生新聞、中高生新聞は、もっと役立ちます。
17. 自分に一番合った新聞や、新聞のコーナーを見つけ、親しんでくださいね。
18. その国の新聞は、その国の文化そのものです。その地域の新聞は、文化そのものです。情報の発信基地の一つでもあります。日本は、新聞の発行が極めて盛んな国の一つです。地方紙もたくさんあります。新聞は、日本や地方の文化、情報発信を担っています。
19. 特に、日本の新聞は、毎日、雨の日も、雪の日も、新聞配達店の皆様のご努力により、家庭や事業所、コンビニに配達され、読者に提供されます。学校の図書室や、公立図書館、大学図書館では、新聞の閲覧が可能です。
20. ただし、新聞は、自己責任、自助努力で、言論・出版の自由に基づき、新聞社が自由に発行していますので、必ず偏り（かたより）があります。ですから、一紙だけではなく、時々、図書館等で、複数の新聞を読み比べ、様々なものの見方があることを知ることが大切です。
21. 開倫塾のいくつかの校舎で、本年も、新聞記者や新聞配達店の皆様を講師としてお招きします。「新聞ができるまで」や、「新聞が配達されるまで」などのテーマで講演会を開催します。しっかりお話ををお聞きし、新聞に親しむきっかけにしてください。
22. 開倫塾に塾生として在籍している間に、新聞を毎日読み、新聞と親しみしみ、「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身に着けましょう。

よろしくをお願いいたします。

